

卒業論文

「地元」で生きるということ  
——まちづくりの担い手たちの希望——

2013 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース  
社会学・地域福祉社会学専門分野

2017 年 1 月提出

## 要 約

本論文は、地方における都市部への人口流出の解決の糸口として、「地元」で生きるという選択をし、さらに「地元」の暮らしを豊かにするためのまちづくりを担う人々の実態を把握を通じ、彼らが「地元」で生きる上での希望をどこに見出しているのかを考察することを目的とする。

はじめに本論における地方を①人口100万人以下であること、②人口減少していること、のどちらかを満たしている市町村とし、現状を示す諸々の統計データを示した。日本全体として人口減少が進む中で、人々の都市部への人口の集中により、多くの地方はますます深刻な人口減少の状態にある。このような現状の中、政府による「地方創生」にはじまる近年の地方への注目を述べた。なかでも若者や子育て世代における都市から地方への「田園回帰」によるIターン、Jターン者といった「よそ者」への期待は地方において高まっているが、「よそ者」の地域への呼び込みが、多くの地方においては困難で解決には結びついてないのも事実であり、今後も地方から大都市圏への人口流出は続くと言われている。これらを踏まえ、「地元」を「自分の生まれ、育った場所のうち帰属意識の高い地域・自分が住んでいる地域」と定義し、本論において「地元」で生きる人々へ注目する立場を示した。「地元」という具体性や情緒性をまとった当事者意識を持つとされる彼らの実態に迫り、彼らの見出す希望を考察することは地方にとって意義があることだと考える。

次に、本論では地方において「地元」で生きる人々の中でも、より地元への意識が具現化していると考えられる、まちづくりの担い手に注目するため、まちづくりとは何かを確認したうえで、先行研究を紹介した。担い手自体の研究は数が少なく、属性を量的に調査したものに留まる。「地元」という具体的で強い情緒性をまとった概念のもと、統計的研究は行いにくいと考え、インタビュー調査による質的調査を行うことにした。また、希望を考察する上で、対象者が「地元」で生きることを〈過去〉、〈現在〉、〈未来〉の3つの時間軸から考察するという分析の焦点を示した。

つづいて、調査対象の選定方法と選定理由を調査概要にあわせてまとめた。調査対象は人口減少が進む100万人以下のまちであるX県Z市をフィールドに設定し、アクセス難度、一定の評価をうけた活動を行っていること、非地縁的であることから「地元」でまちづくり活動に取り組む30代～60代の6人を選定した。また比較として東京からの移住者で地域おこし協力隊の男性1人にも調査を行った。調査を進めると「地元」の6人は全員自営

業者、そして地元の進学校、大卒の比較的高学歴な人々であることがわかった。偏りがあることの考慮が必要だが、自営業者とまちづくりの関係性の深さは既に指摘されていることから、地方のまちづくりにおいて重要な役割を果たしている人々だといえる。

分析においては、調査対象者の語りを上述した分析の焦点に基づいて整理した。「地元」で生きる上での希望と考えられるものには、実現させたい具体的な内容と可能性を感じるができるものがあり、可能性を感じるができるものとしては①地域ポテンシャルの発見、②境遇の似た仲間の存在、③ロールモデル、④自分自身のポテンシャルの発見、がみられた。

最後に可能性を感じるものに共通する他者の存在や「共感」の指摘し、今回の調査対象者が「地元」で生きる人のこととして一般性の欠如などを付言したうえで結びと本論文の結びにかえた。

## 目 次

- 1 本論文の背景と目的
  - 1.1 関心の所在
  - 1.2 地方のおかれた現状
    - 1.2.1 地方とは
    - 1.2.2 社会統計からみる地方
    - 1.2.3 「地方消滅」と「地方創生」
    - 1.2.4 注目される地方、注目されるよそ者
    - 1.2.5 注目の裏に潜む課題
  - 1.3 地方と「地元」の人々
    - 1.3.1 「地元」とは
    - 1.3.2 「地元」という概念の可能性
  - 1.4 小括
- 2 本論文における分析の方法と焦点
  - 2.1 先行研究にみられるまちづくりの担い手
  - 2.2 本論における調査と分析の方法
  - 2.3 本論における分析の焦点
- 3 調査対象と調査の概要
  - 3.1 調査の目的
  - 3.2 調査対象地の概況
  - 3.3 調査の概要
    - 3.3.1 調査方法
    - 3.3.2 調査対象者の選定理由
    - 3.3.3 対象者のまちづくり活動
- 4 分析と考察
  - 4.1 属性からみる対象者
  - 4.2 「地元」で生きる——〈過去〉の視点

- 4.2.1 対象者のライフヒストリー
- 4.2.2 地元で生きるに至るまで
- 4.3 「地元」で生きる——<現在>の視点
  - 4.3.1 「地元」で暮らす・働く上で最近うれしかったこと
  - 4.3.2 支えにしている人
  - 4.3.3 ロールモデルの存在
  - 4.3.4 「地元」への感情
- 4.4 「地元」で生きる——<未来>への視点
  - 4.4.1 実現させたいこと
- 4.5 小括
- 5 「地元」で生きる希望
  - 5.1 見出している希望
  - 5.2 可能性を感じる ①地域のポテンシャルの発見
    - 5.2.1 「地元」を知る機会からの発見
    - 5.2.2 新しい出会いからの発見
  - 5.3 可能性を感じる ②境遇の似た仲間が存在
  - 5.4 可能性を感じる ③ロールモデル
    - 5.4.1 ロールモデルの不在と示唆するもの
    - 5.4.2 ロールモデルになるということ
    - 5.4.3 これからの「地元」のロールモデルをつくる
  - 5.5 可能性を感じる④ 自分自身のポテンシャルの発見
  - 5.6 小括
- 6 「地元」における他者と「共感」
  - 6.1 他者の存在

6.2 「地元」に「共感」できること

6.3 「共感」をつくりだすこと

6.4 本論における課題

[文献]

[付録]